


(当日配布資料)  
細浦青畝エリア写真

H30.2.16(金)  
第10回 東海村(仮称)  
村松地区周辺地域活性化  
計画策定検討委員会

# 本日のテーマ



**細浦青畝エリア**  
の取り組みについて



# 主な地域資源



押延ため池いこいの森



天神山(真崎城跡)



真崎古墳群









# 押延ため池いいこいの森







↑ 枕木で散策路を分かりやすく



枕木で造った階段



眺望スポットのベンチ



# リフレクションが美しい押延ため池



## 看板で環境保全の啓発











池の先には広々としたスペースが





# 天神山（真崎城跡）





# 三角点からの眺望



県下一低い山 天神山



こんな地層にも出会えます









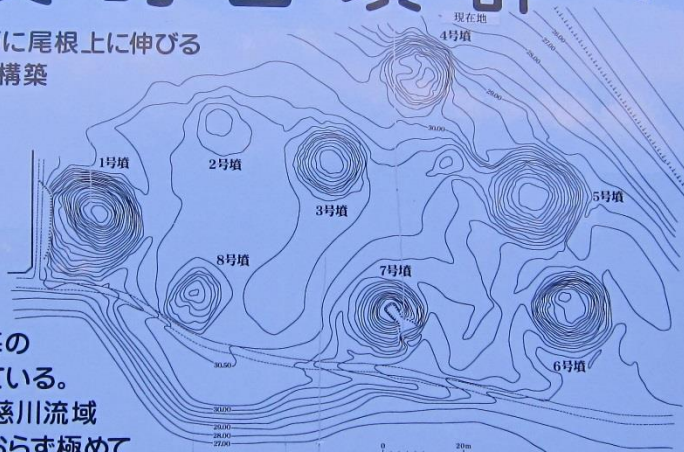
# 真崎古墳群





## 真崎古墳群

本古墳群は東西に尾根上に伸びる自然地形全体に構築されている。東西150m、南北80mの範囲内に残されており、前方後方墳1基、六角形墳1基、円墳5基、方墳1基の8基で構成されている。前方後方墳は久慈川流域では発見されておらず極めて重要な資料である。また、六角形墳(多角形墳)は関東ではあまり類例が報告されておらず関東地方の終末期古墳の研究に大きな意味を残すものである。



↓散策しやすいように、枕木が置いてあります



↑古墳群の入口に解説付きの看板





7～8世紀に造られた  
とされる横穴



形の異なる様々な古墳



眺望スポットのベンチで一休み



昭和六十一年十月



五世紀中葉に尾根を利用して築造されたもので、久慈川流域の古墳を理解する上できわめて重要な歴史的意義を持つと思われる。

東海村教育委員会

東海村指定文化財（記念物・史跡）  
**権現山古墳（前方後円墳）**  
昭和六十一年三月五日指定

この古墳は全長約八メートル、後円部直径約四五メートル、高さ五・五メートルの南西に面する前方後円墳である。現在は周辺部が住宅によって変形しているが、後円部の西裾部に周隍（からぼり）が僅かに認められる。かつては墳丘の裾に幅の広い隍が存在した。本墳は江戸時代に著わされた水府志料に記録があり、以来広く知られた古墳である。本村最大の古墳であることはもちろんであるが、墳丘をめぐる円筒埴輪に特徴があり、県下唯一の格子目タタキを認めることが出来る。

素鷲神社

入口の鳥居

階段を登ると  
素鷲神社へ

神社

↑ 解説付きの看板